

年間第 22 主日 2016.8.28

末席につくことを恥じるな

ルカ 14 章 1, 7-14 節

安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席に着くことになる。招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

説教

ルカはきょうのイエスのことばは、誰にむけられたのかということ記録しています。

前半：招待客に向けて = 上席問題

後半：開催者に向けて = 招待客リスト問題

はなしの内容はわかりやすく、上席問題では宴会に招かれたら末席に座っていれば恥をかくこともないし、ひよっとしたら上席を勧められて気分がよく

なるかもしれない、というのが前半です。後半は内容はすぐに理解できるのですが、その意味はちょっとわかりずらくなっています。宴会には友人、兄弟、親戚、金持ちは呼んではいけない、むしろ貧乏人、身体障害者を招きなさいといえます。宴会をするときは、お返しのできない人を選んで宴会を開きなさいといっています。

福音のなかで宴会は神の国の宴会の比喩として読むという理解の方法があります。

人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。ルカ 7:34

世間はイエスは大酒飲みで罪びとの仲間と非難しています。しかし、神の目からすれば人の子（イエスのこと）は地上に来て、神の国を再現しています。宴会を神の国のたとえと考えれば、まさにイエスが出席する宴会は神の国のさき取りということを示しています。その宴会の席でイエスが大飯を食べ、存分にぶどう酒を飲んでいる、おおいに楽しむイエスとともに食事ができたらどんなにかうれいだろうかあと想像します。こんな神の国のイメージで宴会を想像してみると、宴会に招かれた客は一番の末席にすわって、あとから来るかもしれないお客のために上席を空けておく、また宴会を主催する人は客を吟味して貧しい人、小さくされた人を優先して招く、身内や金持ちを招待することは控える、ということの意味がはっきりと浮かんできます。よき知らせ＝福音とは貧しい人、低くされた人、小さき者のために向けられた、まことのことば「よき知らせ」です。

電車やバスに乗ると優先席があります。老人、身体障害者、妊婦に優先して座ってもらう席です。電車だと各車両の前方、バスの場合ですと入り口付近のとても座りやすいところに設置されています。見ようによってはこれはきょうの福音が現代社会で実現している例とも受け取れます。

あるとき知り合いをバスのなかで見かけました。その人は席が空いているの

にずっと立っていました。バスを降りてからどうして座らなかったのですかとわたしが訊ねると、あとからお年寄りが乗ってくるかもしれないのでと答えてくれました。付け加えて、その時席を譲るのが照れくさいというか面倒だからわたしはバスや電車では座らないことにしているのだといました。その話を聞いてわたしはクルマを運転しているとき、車道を横断しようとしている歩行者を見かけたら一時停止する、ということを実行しようと再度誓いました。（でもいまだ実行できていませんが…）

福音書の宴会は神の国のたとえ、この視点でもう一度きょうのみことばを読み返し、味わってみてください。語りかけるイエスのことばが一人ひとりに心のなかに、いまの自分に必要な意味で福音が響いてくるとおもいます。
